

報

關參謀第四八號

大正七年七月一日接受

警務局 第二課

關東都督府陸軍參謀部

新報 12160 號

大正七年六月十五日

並日通報(時局)第三八號

露國時局

一 哈爾濱及其他ノ情況

右田某氏

露國時局

哈爾濱及其ノ他ノ情況

(哈爾濱警務部員報)

極東委員會ナルモノハ元當地日英米佛各領事ノ斡旋ニ依リテ軍援助ノ目的ヲ以テ設立サレタルモノニシテ而モ其ノ中ニ於テ最モ團體ノ設立ニ努力セシハ我日本ナルニ拘ラス昨今ハ稍親英排日ノ色彩ヲ呈シ來リタルカ如シ其ノ此處ニ到リシハ英國領事ノ交代ナルヘシ前記極東委員會設立當時ノ英國領事ハ臨時代理領事(親日派)ニシテ現在ノ領事ハ賜暇歸國中ナリト云フ各般ニ亘リ親日主義ヲ以テ接シ來リシ

ニ反シ交代セシ現任領事ハ排日ノ思想ヲ有シ事毎ニ日本ノ施設ニ反對セシトスルノ傾向アリ彼ノゴルケヤクカ司令官就職ノ如キハ惟カニ其ノ實例ナリ又ゴルケヤクカ司令官トナリテ以來極東委員會ニ内訌ヲ生シ對テ軍關係ノ良好ナラサルモ亦之ヲ爲ナリ而シテゴルケヤクカハ一旦糺綾落ニ決定シタルニ拘ラス今仍約ヲ履行セス依然トシテ其ノ職ニ止マルノミナラス自己反對ノ部下ニ對シテ壓迫ヲ加ヘ(現ニ數日前極東軍團ノ參謀長タル「バラ」ノ大佐護境軍團出身ニシテ親日派ナリト云フ)ニ對シ

冠スルニ過激派ノ名ヲ以テシ哈爾濱退去ヲ要
求セリ同大佐ヲ之ヲ肯セサルヤ「ゴルナクハ腹
心ノ部下ヲシテ其ノ留守宅ノ夫人ニ電話ヲ掛
ケ主人ヲ哈爾濱ヲ退去セサレハ等ニ「ウマン
スキ」タルニ至ルヘシト威嚇シ遂ニ同大佐ノ
當地立退ヲ餘儀ナクセシメタルノ事實アリト
云フ其ノ暴威ヲ揮ヒツ「アルハ懺カニ現英國
領事ノ尻押アルカ爲ナルヘシト云フ斯ノ如ク
極東委員會ニハ漸次排日気分充滿シ來リ今ヤ
其ノ機關紙ヲシテ大阪毎日新聞ノ出兵論ヲ反
駁セシムル等日本ノ施設ニ反對ヲ表スルノ傾
向ヲ生シ來リタルハ爭フヘカラサル事實ナリ
之カ爲メ佐藤總領事モ心中之ヲ快シトセス昨
今頻リニ轉任ヲ希望シ居ラルルノ風アルハ之
カ原因ナリト云フモ「アリ」
ニ去ル十七日露兵約三百其ノ他小行李若干ヲ載
セタル列車滿洲里線ヨリ來着直ニ浦塩線ニ向
ケ出發シタリ右ハセメノ「軍ニ從軍セシ極東
軍團即チ「オルロフ」隊ノ兵ヲ東部線ニ回送カレ
タルモノナルヘシト思料セラル又支那兵二箇
中隊同日南方ヨリ來着傳家甸ニ向ヘリ

本書發送先

關東都督府民政長官	同	警務總長	關東憲兵隊長
參謀次長	陸軍次官	外務次官	
朝鮮總督附武官	朝鮮駐劄軍參謀長	同	憲兵隊長官
支那公使館附武官	坂西少將	支那駐屯軍司令官	
青島守備軍參謀長	中支那派遣隊司令官	上海駐在武官	
白雲峯守備隊參謀長	獨立守備隊司令官	第七師團參謀長	
南滿洲鐵道株式會社社長			

大正七年七月一日接受

駐務官 第一課

秘 陸軍部參謀第四二〇號

大正七年六月二十五日

關東都督府陸軍參謀部

普通報(露國) 第二九號

送付

露國時局

- 一 獨逸勢力、東漸
- 二 支那軍憲、也軍ニ對スル干涉

露 國 時 局

一 獨逸勢力ノ東漸

(右兩葉 警務部要報)

獨逸ノ勢力ハ今マ決河ノ勢ヲ以テ東漸シ極東亦獨領メラントス之ヲ具體的ニ上クレハ

一 獨逸ハ過激派ノ掠奪ヲ禁シ秩序恢復ノ名ノ下ニ民望ヲ博セントシツツアリ

ニケタイルクーツク其ノ他ノ西部西伯利各都市ニ於テハ獨逸俘虜ト中産階級ト提携シ中

産階級ハ門番夜警等ニ俘虜ヲ傭ヒツツアリ

三 西伯利ニ於ケル各工場ノ技師ハ殆ント獨逸俘虜ヲ以テ台メラル

四 獨逸ノ物資ハ西部西伯利ノ需要ニ供給サレツツアリ

五 目下「夕」方面ニ於テ獨逸商人ハ金塊ノ買台ニ從事シツツアリ

六 支那軍憲ノ「七」軍ニ對スル干渉(同左)

滿洲里支那軍憲ハ北京政府ノ命令ト稱シ(米國ノ斥押ナリト云フ)セメノフニ對シ其ノ部下カ若シ國境ヲ通過スル場合ハ武装ヲ解除スヘシト強硬ニ要求シタリ爲メニ萬一ノ場合支那領ニ入ラサレハ血路無キセメノ「フ」軍ハ今ヤ絶体

絶命トナレリ尚又支那軍憲ハ「セメノ」ヲ軍ノ武
 器輸送ニ干渉シ滿洲里ヨリ戦線ニ運フヲ妨ケ
 間接ニ「セメノ」ヲ軍ノ自由ヲ奪ヒツツアリ之ニ
 對シ「セメノ」ヲ軍ハ大ニ憤慨シツツアレハ或ハ
 近ク支那軍ト「セメノ」ヲ軍トノ間ニ衝突ヲ來ス
 ヤモ計ラレシ爲ニ同地在留邦人ハ萬一ニ備ヘ
 居レリ

本書發送先

- | | | | |
|--------------|-----------|----------|--------|
| 關東都督府民政長官 | 同 | 警務總長 | 關東憲兵隊長 |
| 參謀次長 | 陸軍次官 | 外務次官 | |
| 朝鮮總督府附武官 | 朝鮮駐劄軍參謀長 | 同 | 憲兵隊司令官 |
| 支那公使館附武官 | 坂西少將 | 支那駐屯軍司令官 | |
| 青島守備軍參謀長 | 中文那派遣隊司令官 | 上海駐在武官 | |
| 產糧總督府陸軍參謀長 | 獨立守備隊司令官 | 第七師團參謀長 | |
| 南滿洲鐵道株式會社理事長 | 長春領事 | | |

第12350期

大正七年七月四日接

大正七年 朝憲機第四〇四號

海潮情報

六月二十九日同地第一電報

一、エツク軍ノ勝兵會占領ニ関スル件
 エツク軍ハ今朝十時勝兵會ニ對シ武
 裝解除ノ最後通牒ヲ發シ猶豫期間三十
 分後直ニ勝兵會ヲ占領シ不ハアノ以
 下重ナル一者ヲ?以下五字不明)逮捕シ其ノ周圍
 二在ル軍需品倉庫等皆回兵(エツク
 軍)ノ監理ニ歸セリ(以下五字不明)

一番川臨時工場ノ赤衛軍及赤旗軍若干
 アレト彼等ニハ斃意ナシ曰英陸軍隊ハ
 中立警戒ニ任ス人心ハ昂奮スレトモ不
 穩ナシ此ノ機ヲ利用シテ西伯利政府ノ
 代表者州參事會長等ハ政權(以下二字
 不明)計リツツアリ此ノ政變ハ無事終
 了シ過激派ハ衰滅スヘシ

六月二十九日第一電報

二、エツク軍ハ郵便電信局、國立銀行、海軍
 工廠軍司令部等ヲ漸次占領シタルカ

塞司令部（以下六字不明）赤衛軍約五十名
 降服セズ午後五時遂ニ開戦シ一時同ノ
 後赤衛軍ハ白旗ヲ揚ケ夕リ千軍ノ投シ
 タル爆弾ノ為司令部ノ一部破壊シ火
 災ヲ生シタルモ大事ニ至ラズ雙方死傷
 アリ白衛軍ハ千軍ニ撤退セリ支那軍艦
 ハ午後一時陸戰隊ヲ上陸セシメ夕リ

以上
 報告通報先
 總督 政務總監 總務局長

陸軍大臣 參謀總長 関東都督
 軍司令官 師團長 憲兵司令官
 内閣書記官長 拓殖局長 外務次官

物受12357號

大正七年七月四日接

大正七年朝憲機第四〇五號

浦潮情報

(六月三日同日發第一三號電報)
同日朝憲機第四〇四號電報

チエツク軍ノ勞兵會占領ニ関スル件
チエツク軍ハ二十八日ヨリ浦潮ニコリスク
間ノ鐵道ヲ占領シ軍ヲニコリスク方面ニ
進メツツアリ北行ノ列車ハ運轉中止電
信ハ海底線ノ外不通ナリ當市ノ政權ハ
全然穩健派ニ歸シ市中靜穩ナリ
以上
報告通報先

- | | | |
|--------|-------|-------|
| 總督 | 政務總監 | 總務局長 |
| 陸軍大臣 | 參謀總長 | 關東都督 |
| 軍司令官 | 師團長 | 憲兵司令官 |
| 內閣書記官長 | 拓殖局長官 | 外務次官 |

大正七年七月六日 陸軍部

陸軍部

參謀第四三一號

陸軍部 第一課

大正七年七月一日 關東都督府陸軍參謀部

陸軍部 秘受12459號

普通報 (時局) 第三〇號

露國時局

一、日軍ト支那側妥協成立
二、ホルワツト長官ノ來齊ノ用務

加量抄友

露國時局

一、支那側妥協成立

(治爾貴) 警務部員報

セメノフ軍ノ武装解除説ニ關シ稍信スヘキ方面ノ消息ヲ聞クニ滿洲里駐屯ノ支那軍憲ハ曩ニセメノフ軍ノ形勢非ナリト見ルヤ中央政府ノ命ナリトシテセ軍カ支那領土ニ立入りタル場合ハ武装ヲ解除スヘク通告シタルハ事實ナリ而シテ斯ノ如キ通告ヲ爲シ其ノ態度ノ強硬ナリシハ目下セメノフニ反感ヲ有スルホルワツト一派殊ニゴルナヤク等ヲ頻リニ權謀術策ヲ施ラシテ支那軍憲ヲ突ツキタルノミナラス

又其ノ背後ニ英國有リテ間接ニ之ヲ使喚シタルニ據ルモノノ如シ然ルニ其ノ後來着セル荒木中佐カ調停スル處アリタルノミナラス過激派軍カ東部西伯利ノ騷亂ニ應シテ自ラガウリヤ戰線ヲ放棄後退シタル爲彼我ノ形勢ニ大變化ヲ來シタルヨリ支那側ニ無理ニ主張ヲ貫徹スル能ハサル立場トナリ結局妥協成立シ事無キヲ得タリト云フ

ニボルワツト長官ノ來齊ノ用務(齊省哈爾濱)
東支鐵道長官「ボルワツト」中將ハ六月二十一日
午前齊齊哈爾ニ來リ鮑督軍ノ出迎ヲ受ケ同夜
臨時列車ニテ出發歸哈セリ「未將軍來齊ノ用向
ハ東支鐵道ノ保護ニ關シ謝禮ノ爲ニシテ別ニ
政治的意味ヲ有セヌ過般吉林孟督軍ヲ訪ヒ今
黑龍江督軍ヲ訪問セルニ徵スルモ明カナリト
稱シアルモ鮑督軍ノ「ボルワツト」ノ談話トシテ
領事館員ニ語ルトコロニ依レハ「ホハセメ」ノ「
ニ對シ極テ好意ヲ有スルニモ拘ハラヌ」セハ略
ニ自己ヲ疑ヒ意思ノ疏通充分ナラサルヤノ嫌

アリ而シテ「セメ」ノ「ワ」斯ノ如キ態度ハ畢竟東支
鐵道沿線ニ駐屯スル貴國軍隊側等ヨリ各種ノ
謠言放タルニ「アラサルヤ」疑フモノアリ斯ノ
如キハ予ノ甚ク遺憾トスル所ナルヲ以テ貴督
軍ハ此ノ際特ニ誤解ナキ様部下ヘ傳ヘラレタ
シト速ヘタリト云ヒ其ノ他ハ多ク諸ルヲ仔マ
サルノ模様アリタルカ督軍署參謀長代理邢士
廉ノ小官ニ漏ストコロニ依レハ「未將軍來齊ノ
用向ハ西三日中ニ「未將軍」ノ増援トシテ七八百ノ
兵員ヲ滿洲里ニ増派スヘキモ若シ該増援隊ノ
來着ニ先ケセメ「フ」支隊ノ國境ニ退却シタル



場合ニハ支那側ハ於テ武装ヲ解除スルコトナ
クモ單自發的ニ武装ヲ解キテ之ヲ保管シ以テ
國境ニ於ケル戦闘ヲ避ケシムルコトニ協定シ
タリト云ヒ且此ノ旨既ニセメノフニ通シテ
リテ亦將軍歸哈ノ上又之ヲセメノフニ通告ス
ルコトニナリ居レリト小官ハ「セ軍ニ對シ聯合
國側カ援助ヲ與ヘツツアルハ既ニ貴官ノ知ラ
ルル所ナリ此ノセ軍ニ對シ武装解除ヲ行フハ
聯合諸國ニ對シ甚ク面白カラズ北京政府ノ意
志モ亦武装解除ヲ希望セサルヘシ而シテ本件
ニ關シテハ北京政府ヨリ何等カノ訓令到達シ

アラサルカト糾シタルニ抑ハ此ニ對スル何等
ノ訓令モ到着シアララスト言明シ此ノ間毫モ疑
フヘキ言動ヲ認メス且本件ノ談話ハ鮑督軍
ニ對シ絶對秘密ヲ守ラレタシト附言シタリ
以上ニヨリ察スルトキハ段總長ノ齊藤少將ニ
對シ言明シタル訓令ナルモノハ未タ實施セラ
レアラサルヤト思ハルル点アリ尚那參謀長代
理ハ習シセメノフ軍ニシテ武装解除ヲ肯セス
武力ニ訴フルカ如キ場合貴國軍隊ハ之ト戰鬥
ヲ辞セサルカトノ小官質問對シテハ此ノ如キ場合ハ發生
セサルコト若シアリトスルモ支那軍隊ハ戰鬥スルヲ欲セスト附言シタリ

本書發送先

關東都督府政長官	同	警務總長	關東憲兵隊長
參謀次長	陸軍次官	外務次官	
朝鮮総督附武官	朝鮮駐劄軍參謀長	同	憲兵隊司令官
支那公使館附武官	坂西少將	支那駐屯軍司令官	
青島守備軍參謀長	支那派遣隊司令官	上海駐在武官	
台灣總督府陸軍參謀長	獨逸守備隊司令官	第七師團參謀長	
南滿洲鐵道會社理事長	長	春領事	

大正七年七月六日 變更

關東都督府參謀第四三二號 第一課

大正七年七月一日

關東都督府陸軍參謀部

秘受12460號

新聞報 (時局) 第一六號

時局

三、イルクリツクハ獨塊浮虜ノ手ニ握ラル

二、聯合國ノ援助

露國時局

三、イルクーツクハ獨逸俘虜ノ手ニ

握ラル

(六月二十六日 北京日報)

六月二十四日付哈爾濱電報ニ曰ク「イルクーツクヨリノ公報ニ依レハ同市ハ全ク獨逸俘虜ノ管理スル所ニシテ一人ノ「エツクスロワク」人モ居ラス多數ノ「エツクスロワク」ハ浦塩ニ向テ出發シ又「イルクーツク」市以西ノ同兵ハ西伯利政府ヲ援ケ鐵道ヲ保持スル為ニ止マリ居ルト思ハル「エツクスロワク」及過激派ヨリナル一團ノ委員ハ西部西伯利ノ騷擾鎮壓ノ為先週

浦塩ヲ發シテ西伯利ニ向ヘリ
一般ノ信スル所ニ依レハ「エツクスロワク」ハ西部戰場ニ出征ヲ希望シ居レト西伯利ニ止マリテ活動スルヲ餘儀ナクセララルラン西伯利政府ノ地方委員ノ言ニ依レハ露國人ノミナラハ秩序ヲ恢復シ易キモ強力ナル獨逸俘虜ノ存在スルカ為ニ努力ノ効ナシト同委員ハ在「イルクーツク」獨逸俘虜ヲ獨逸軍隊ノ前衛ト見做シ居レリ浦塩ハ目下「エツクスロワク」ノ手中ニアリテ及過激派思想ハ公然發表セラレ且聯合國ノ干涉希望モ亦輿論トナリツツアリ

二 聯合國ノ援助

(六月二十七日)

露國革命以來本紙ハ二回紙名ヲ變更シタレト
モ露國ハ聯合國ト同盟關係ヲ斷絶スヘカラス
トノ吾人ノ主張ハ少シモ變ル所ナシ陰險ナル
親獨的標榜語ヲ有スル過激派ノ主義ハ勿論「
ンメルワルド」ノ世界主義モ其ノ他ノ偏倚セル
黨派的傾向モ全露帝國ノ破壊モ共ニ皆吾人ノ
賛同スルモノニアラス故ニ哈爾濱ノ有力家及
民主黨カ六月十八日及二十日ノ協議ニ依リテ
對聯合國態度ヲ決シタル根本精神ハ吾人ノ所

信ト合致セルヲ見テ満足ニ堪ヘサルナリ即兩
協議會ノ決議ハ共ニ露國內ノ獨逸勢力及其ノ
支持者ヲ一掃スル為積極的ナル露國及聯合國
ノ相互協力援助ノ緊要ナルコトヲ認メタリ然
レトモ露國ト聯合國トノ共同動作ノ復活ハ獨
逸ト手ヲ握レル勞農政府ヲ倒シテ直接公平秘
密ナル普通選舉ニ由リテ各地ヨリ自由ニ選出
サレタル健全ナル人々カ自由ニ國家社會ノ行
政ニ參與シ得ルニ至リテ初メテ可能ナルモノ
ナレハ先ツ勞農政府ヲ例ス為ニ聯合國ノ助力
ヲ求ムルハ露國並聯合國ニ共通ナル戰爭目的

ヲ再興スルニ重要ナル階段ナリ
聯合國カ若シ獨逸ニ當ル戰線復興ノ目的ヲ以
テ露國領土内ニ出兵スル場合ニ之ニ對シテ干
渉呼ハリヲ為スノ不都合ナルハ吾人既ニ屢次
說ケリ戰爭ノ勝負何レニ歸スルカ未タ不明ナ
ル今日ノ狀態ナルニ聯合國ハ對獨以外ノ他ノ
目的ヲ以テ露國ニ出兵スヘキ筈ナシ況ヤ未タ
確實ニ獨逸ヲ征服シ能ハサル聯合國カ露國ヲ
分割ナトトハ到底アリ得ヘキコトナラス然レ
トモ若シ露國カ獨逸ト實際戰フコトナク現在
舊露領^フウクライナ^ナガリシヤ^ナ其ノ他ノ地方カ獨

逸ノ資源トナリ居ル如ク却テ残留セル露國ノ
經濟的資力ヲ以テ獨逸ヲ養フコトアランカ未
ルヘキ平和會議ニ於テ或ハ露國ハ賠償ヲ請求
セラルルヤモ知レス萬一ニモ勞農政府カ聯合
國カ獨逸ノ露國及其ノ他ノ東方諸國ヲ犠牲ニ
シタル講和提議ニ應セサルヲ見テ獨逸ヲ助ケ
テ聯合國ヲ破碎セント夢想シムルマン海岸及
西伯利方面ニ於テ聯合國ニ敵對セハ露國ノ請
求セラルル賠償ハ更ニ一層大ナルモノアラン
何等政治的知識ナク唯々私利私慾ヲ充タサン
カ為ニ國民的政府ト自稱スル勞農政府ヲ陰ニ

陽ニ支持スル輩ノ怖ルル干渉及賠償領土的ハ
露國カ今日ノ如ク無爲傍觀ノ態度ヲ持續スル
カ若ハ現露國カ獨逸ニ加擔スル場合ニノ發
生スルナリ哈爾濱ノ有力家及民主黨ノ對聯合
國援助要請ハ露國ニ對スル干渉又ハ賠償ノ發
生ヲ豫防スルモノニシテ決シテ之ヲ誘致スル
モノニアラス現戰爭ノ將來ハ何人モ豫言スル
コト能ハサレト若シ露國カ受動的態度ヲ維持
スルカ或ハ獨逸ト提携スル如キコトアラハ日
露戰爭當時ノ支那領土ノ如ク露國領土ハ戰乱
ノ巷トナルコト明カナリ聯合國ハ勞農政府ヲ

敵ト認ムヘキ充分ノ理由アレハ勞農政府ハ支
那政府ノ如ク中立ヲ宣言スルコト能ハス而シ
テ自己ニ敵對スル政府ヲ有スル國ニ入りタル
外國軍隊ハ自ラ武力ニ依リ支障ナク戰爭目的
ヲ達シ得ル様ニ處置セサルヲ得ス故ニ露國民
ハ外國人カ自國內ニ於テ自由ニ處置スルコト
ヲ避クルコト能ハサルノミナラス又可能ナル
コトヲ思ハハ露國ヲ獨逸ノ陰謀ヨリ救済シ吾
人ノ運命ヲ外國人ノ自由ニ任セサル為ニハ唯
聯合國ト協同スルヨリ他ニ方法ナキコトヲ悟
ルナラン

吾人カ勞農政府ヲ倒シテ再ヒ獨逸ニ對スル戰
線ヲ復興スル為ニ援助ヲ聯合國ニ要請スルハ
決シテ慈悲恩惠ヲ乞フニアラス單ニ共同目的
ヲ達スル為即聯合國ニモ痛切ニ感セララルル利
害關係改善ノ為共同一致ノ行動ヲ復活センコ
トヲ求ムルニ他ナラス若シ此ノ目的ニシテ達
セラルルコト能ハサランカ聯合國ハ獨逸カ既
ニ露國ノ頭上ニ加ヘタル如キ政治的及經濟的
陰謀ノ脅威ヲ蒙ラン故ニ露國カ獨逸ヲ破ル為
再ヒ聯合國ト鞏固ナル同盟ヲ結フコトハ決シ
テ賠償等ヲ誘致スルモノニアラス單ニ舊時ノ

如ク相互援助ノ義務ヲ負擔セシムルニ過キス
勿論相互援助ノ義務ヲ引受クル以上ハ多少ノ
物質的損害ヲ蒙ルナランモ夫ハ國家存立ノ為
子孫ノ利福ノ為生スル損害ナレハ之ヲ忍ハサ
ルヘカラス故ニ國民ハ今ニ於テ大局ニ眼ヲ注
キ多少ノ損害ヲ意ニ介セズ来ルヘ平和會議ノ
際自己ノ面目ヲ毀損セサル様努メサルヘカラ
ス今日ニ至リテモ尚勞農政府ニ隨喜シ露國ノ
救濟ヨリモ獨逸ノ後塵ヲ拜スルコトヲ擇フ少
數ナレトモ民主黨ノ一部ノ者ハ自己ノ不明
貧慾愛國心ノ缺乏自衛ノ念ノ缺乏過激派カ露

國ニ及ホシタル大害毒ヲ覺知スル能力ノ缺乏
ヲ曝露スルモノナリ

本書發送先

関東都督府民政長官 同 警務総長 関東憲兵隊長
参謀次長 陸軍次官 外務次官
朝鮮総督府武官 朝鮮駐劄軍参謀長 同 憲兵隊長
支那公使館附武官 坂西少将 支那駐屯軍司令官
青島守備軍参謀長 中支那派遣隊司令官 上海駐在武官
台湾總督府陸軍参謀長 獨立守備隊司令官 第七師團参謀長
南滿洲鐵道株式會社理事長 五津雄祐

六

機受12463號

大正七年七月六日 發

發務局

第一課



大正七年朝憲機第四二號

露領煙秋ノ近況ニ関スル件

煙秋居住鮮人朴京化ナル者過般慶興ニ渡

未シ語ル如シ

一又過激派黨員未煙ニ関スル件

六月十五日「ホセ」ト八港ノ露國汽船ニテ

自ラ又過激派黨員ト稱スル露國人二十

八名(内十数名銃器携帶)未煙ニ同地郵便

局長(氏名不詳)ヲ訪問シ我等ハ從未浦潮

過激派ニ屬シ居リタルニ過激派ノ勢力

日ニ衰ハ西比利亞ハ遂ニ過激派ノ有ニ

アラサルハク大勢ニ順應スルノ賢ナル

ヲ覺リ今回哈爾濱ニ於テ拳兵ヲ企画中

ノ又過激派軍ニ投スルノ目的ヲ以テ該

地ニ赴ク途中ナリト語り同地ニ一泊翌

十六日支那領羅山溝(瑛春奥地ニシテ地名不詳)

ニ向ケテ出發セルカ又過激派ニ屬スル煙

秋郵便局長ハ彼等ノ旅行ヲ賛シ種々ノ

便宜ヲ與ハ且瑛春方面ニ於テハ支那官

憲ノ爲ニ其ノ通行ヲ差止メラレタル前

例ニアレハ間道通行ヲ為スヘシト勸告

シタル為一行、琿春ヲ經ス奥地ニ向ヒ

二

煙秋韓人會書記崔「オルマン」ノ言動
煙秋韓人執行委員會書記崔「オルマン」ハ過
般浦潮ニ於ケル内地人殺害事件ニ關シ
語リテ曰ク浦潮ニ於ケル日本人殺害事
件ハ被害者ハ當時免ルルノ餘地アリ
ルニモ不拘態々犠牲トナリシハ日本水
兵ノ上陸且ハ日本ノ西比利亞出兵ヲ誘
致センコトヲ期シタルモノナリ日本
ハ一個人ニシテ尚此ノ領土の野望アリ

三

吾等大韓民族ノ領土の慾望ニ至ツテハ
更ニ論スルノ價値ナキニ若日本出兵ノ
日アラハ吾人ハ極力之ニ抗シ日本ノ領
土の野望ヲ破壊セサルハカラス云々
三、ホセツト琿春間鐵道敷設風説ノ件
近來煙秋ニ於テハ米國政府ノ經營ニ依
リ「ホセツト」琿春間鐵道敷設ノ事ハ
ノ噂熾ニシテ猶同鐵道竣工ノ曉ニハ軍
事上ノ關係ヨリ「ニコリス」煙秋間ニ敷
設セラルヘシトノ説盛ニナリ
以上



報告通報先
 總督
 陸軍大臣
 軍司令官
 内閣書記官長
 間島派遣員
 政務總監
 參謀總長
 師團長
 拓殖局長官
 總務局長
 関東都督
 憲兵司令官
 外務次官

秘受12518册

大正七年七月八日 接獲

大正七年朝憲機第四一三號

浦潮情報

六月廿五日同地發

一、獨塊俘虜等ニ関スル件

密偵カ「ニコリスク」ヨリ齎セル報告ニ依レ

ハ同市ニハ目下五百五十名ノ捕虜殘留

シアリ

別報ニ依レハ「ニコリスク」市ハ目下至テ靜穩

ニシテ捕虜ハ殆ト全部武装シ市中ヲ警

備シツツアリト

又「ホクラニチキ」及「過激派軍」ニ對抗スル爲

ニコリスク其ノ他ヨリ「グロデコフ」ニ集中シタル兵數ハ

六月五日浦潮ヨリ 四百名

左 六日「ニコリスク」ヨリ 六百名

左 七日「ハバロフス」ヨリ 六百名

左 八日「スペース」ヨリ 六百名

左 九日「ハバロフス」ヨリ 六百名

外「ニコリスク」ヨリ赤衛軍約千名合計三

千八百名

野砲八門機関銃四門ナリト

尚浦潮斯徳ニハ平服ニ変装シタル獨塊捕虜多数入込ニ居レリトノ説アリ取調中

ニ、鮮人牧師朴致衡惨死ノ件

大正六年中咸興長老教會ヨリ浦潮方面ノ牧師トシテ派遣セラレタル朴致衡ハ曩ニ女ノ關係ニテ教會ヨリ排斥セラレ當地ヲ立退キ支那吉林省饒河縣方面ヲ巡遊シ同縣内ニ土地ヲ購買スルノ有利ナルヲ認メ歸浦ノ上前信者中ノ資産家

ヲ説キ其ノ委托ヲ受ケ数千留ヲ携帶シ饒河縣ニ赴キタル後杳トシテ音信ヲ絶チシカ近未ニ至リ途中ニテ支那馬賊ニ惨殺セラレタルコト明白トナリ旧信者等ハ大ニ同情ヲ寄セ其ノ遺族ノ新韓村ニ在ルヲ救助セムトテ目下寄附金募集中ナリ

饒河縣ハ遼山府ノ北ニ在リ烏蘓里鐵道ビキンシノ北「ローゼンガルト」ヲカ「馭」ヨリ烏蘓里江ヲ越ヘテ直ニ同縣ニ入ル同地ハ先

年來露領ヨリ鮮人ノ移住者頗ル多シ

報告通報先

總督

陸軍大臣

軍司令官

内閣書記官長

關都警務總長

政務總監

參謀總長

師團長

拓殖局長官

總務局長

關東都督

憲兵司令官

外務次官

第12755號

大正七年七月十一日接獲
駐政務高了第課
七月八日 浦潮情報 報

七月七日 同地發電報

六日 日英米佛支那ノ六海陸軍司令官ノ名ヲ以テ聯合國ハ獨塊倭虜ノ行為ニ鑑ミ浦潮市及附近一帶ノ警備ニ當リ必要ニ應シ兵力ヲ使用シ及洲參事會ハ地方官憲トシテ之ヲ認ム自覺アル露國民ハ一致協同シテ速ニ確實且永久的政府ヲ建設シ秩序ト法律ノ維持ニ努メンコトヲ望ム旨布告セリ米國ハ歩兵一

小隊ヲ揚ケタリ

以上

報告通報先

總督	政務總監	總務局長
陸軍大臣	參謀總長	關東都督
軍司令官	師團長	憲兵司令官
內閣書記官長	拓殖局長官	外務次官
廣興鏡城憲兵隊長		

關東都督府陸軍參謀部
大正七年七月十二日
參謀第四四三號
第一課

大正七年七月六日 關東都督府陸軍參謀部

並日通報(時露國)第三一號

露國時局

一七軍ニ武装解除要求裏面ノ消息

12779號

露 國 時 局

一「七」軍ニ武装解除要求裏面ノ消息(聞務報)
西部國境ニ於ケル支那軍憲カ急ニ態度ヲ一變
シテ「七」軍ニ武装解除ヲ要求スルニ至リタル裏
面ノ消息ニ付テハ種々ノ憶説傳ハリタル所ナ
ルカ其ノ最モ信スヘキ方面ノ消息ニ依レハ這
回西部國境ノ支那軍憲カ滿洲里其ノ他支那領
土ノ保全ヲ理由トシテ「七」軍ニ武装解除ヲ要求
シタル旨北京政府ヘ電報シタルニ對シ北京政
府ハ「支那」聯合諸國ト共ニ獨塊兩國ニ對抗シ
ツツアル際支那軍カ獨塊俘虜ト提携セル過激
派軍ニ厚意ヲ表シ「七」軍ノ行動ヲ妨クルカ如キ
ハ之レ聯合國參戰協商及日支協約ノ本旨ニ悖
ルモノナルヲ以テ断シテ不可ナリトノ戒飾的
回電ヲ送り來レリト之ヲ以テ見レハ皆武装解
除要求ハ北京政府ノ意ニアラスシテ果シテ眞
國境ニ於ケル支那軍ノ獨断的行爲ニシテ英米
兩國關係者ノ使候ニ基ク反「七」派ノ術策ニ利用
サレタルカ或ハ過激派ト歎ヲ通シ居タル結果
ナルヘシト觀測セララル

本書發送先

關東都督府民政長官

同 警務總長

關東憲兵隊長

參謀次長

陸軍次官

外務次官

朝鮮總督附武官

朝鮮駐劄軍參謀長

同 憲兵隊司令官

支那公使館附武官

坂西少將

支那駐屯軍司令官

青島守備軍參謀長

中支那派遣隊司令官

上海駐在武官

臺灣總督府陸軍參謀長

獨支守備隊司令官

第七師團參謀長

南滿洲鐵道協會理事

長春領事

大正七年七月十六日 警務局長 第一課

大正七年七月十六日 高第一九六八五號

日本人義勇兵募集ニ関スル件
露國人東清鉄道長春驛日本語通譯

ミハウソコリスキ

當二十五年

Michio Nakabayashi



12967

右者本月七日午前八時三十分新義州驛着列車ニテ肩書地ヨリ入境シタルモ所持ノ旅券ニ山内長春領事ノ査證アルモ寫真ノ貼付ナキニヨ

リ該領事ニ今人ノ身元及旅行目的ニ付照會中今人ハ菊池大佐ヨリ添書露國官憲ヨリハ公務證明書ノ交付ヲ受ケ來ルヘシト稱シ今日午後八時五十分新義州發列車ニテ奉天ニ向ケ出發セリ而シテ今人ノ長崎ニ旅行スル目的其他ニ付調査シタルニ左ノ如シ
左記

露國人「ミハウ、ソコリスキー」ハ長春驛
ニ日本語通譯トシテ勤務中ノ處
最近「ホルワツト」長官ノ麾下タル「ネ
ムスキー」大佐寬城子ニ来リ内鮮人
義勇兵募集ニ際シ「ソコリスキー」
ハ日本語ニ通シ居ルヲ以テ全人
ヲシテ内地人義勇兵ノ募集ニ從
事セシムルコトナリ「ソコリスキ
ー」ハ香川縣香川郡雄島村當時

長春新市街居住鵬本直定ニ之カ
盡力ヲ依頼シ鵬本ハ知合ノ間柄
ナル長崎縣全市江戸町半田屋方
松園小彌太ナル者ニ交渉シタル
ニ今回長崎ニ於テ内地人義勇兵
五十三名ヲ募集シタル旨松園ヨ
リ鵬本ノ許ニ通信アリタルニヨ
リ「ソコリスキー」ハ「ホルワツト」長官ノ
參謀長「フリヨシヤチンスキー」少將ヨ

リ應募兵ノ旅費トシテ金二千八百五十円ヲ受取り七月四日長春奉天ニ至リ全地ニテ支那軍事顧問菊池大佐ノ意見ヲ聴取シ全六日奉天奉天ノ意見ヲ聴取シ全引連レノ為長崎ニ赴ク途中ナリト陳述セリ而シテ鵬本直定渡レ安東銀行支店振出し長崎福岡銀行支拂ノ額面二千八百五十円ノ

替為手形ヲ所持シ居レリ尚ホ當部ノ照會ニ依リ山内長春領事ヨリソコリスキ一ノ日本行ニ對シテハ兼認シ居ラス又全人ハ素行不良ノ者ナル旨回答アリ夕

以上

報告通報先

總督 政務總監 總務局長

陸軍大臣 軍司令官 師團長
内閣書記官長 内務次官 外務次官
警視總監
(長崎縣 香川縣知事)

機受12969勝

大正七年七月十六日

駐露公使館 第(一)課

大正七年七月十日 朝憲機第四二八號

浦潮情報

七月二日同地發

一 西伯利自治政府ニ関スル件

西伯利自治政府ハ過日ノ政変後(七月四日)

成立シ聯合國ニ承認ヲ請求セリ(前勞代會跡(前

沿海州軍務知事官舎)ニ居テ占メ西伯利政

府ノ標旗トシテ白ト綠色トノ二色旗ヲ

掲ケタリ

西伯利政府ナルモノハ西伯利ヲ露國共

和國ノ一聯邦トシテ存續セント欲スル

モノニシテ純然タル獨立ヲ期スルモノ

ニアラサルハ其ノ宣言ニ依テ明ナリ而

シテ現今同政府ノ職員ハ左ノ如シ

内閣總理大臣 パー、デルベル

閣員 ウキクトル、チベル、ペトロフ

同 セルゲイ、クドリヤツエフ

同 ガリフ、子オメトウルロフ

同 兼内閣書記官長 ザーハロフ

同 浦潮要塞區域及市軍事代官

准士官 ニコライ、アレキサンドロウチ、ガールキン

同上、軍司令官陸軍大佐セルゲイ、セルゲイ、ウラチ、トルストフ

(トルストフ、未著迄臨時署理大佐ウオルコフ)

内閣経理部長 アエム、プレウオシチーコフ
陸軍省事務署理 クドツリヤーフツエフ

同 子オメトツルロフ

大蔵省事務署理 アレキサンドル、デスナーシエウキチ、
糧食及供給省事務署理 イウ、ペトローウキチ、タラーソフ

外務大臣 (兼) デルベル

外務省事務署理 アルカーヂー、ヨラエウキチ、ペトウロフ

財政経済委員会会長 コスミンチン、プロコーピエウキチ、ラウロフ

内閣法律顧問 エヌ、イ、ツミツトラーシ

同 エス、ア、ワリーリデン

同 エヌ、ケー、ドゥケリーリスキー

同 フョードル、エフレモーウキチ、マナーエフ

内務大臣 (兼) チーベル、ペトウロフ

官報主任 アエム、クラスノウソフ

同 エフ、セメーシコ

尚西伯利自治政府ハ七月二日ヨリ官報
ヲ發行スル筈

二 西伯利自治政府ニ対スル非會社主義
者団体ノ態度ニ関スル件

新聞ノ所報ニ依レハ浦潮商業會議所及
商工業家ノ団体ハ西伯利自治政府「エミツ
サリアト」ナル者カ純然タル社會主義者ノ

ミニ依テ構成サレタルモノナルヲ理由
 トシテ自派代表者ノ之ニ参加スルコト
 ヲ拒絶シタリトアリ而シテ之等非會社
 主義者團體ノ主張スル聯合政府主義
 ナルモノハ左ノ如クナリト云フ
 一 平等ヲ基礎トシテ政府ヲ組織スルコ
 ト
 二 政治的趣味ヲ全然除外シタル國家的
 陸軍ヲ復興スルコト
 三 聯合諸國ト同盟關係ヲ復興スルコト
 四 國民委員會ノ制令ヲ廢止シ臨時政府
 時代ノ立法制ニ移ルコト
 五 行政機關又ハ之カ監視機關トシテノ
 勞兵會ヲ全率シ職業及政治的同盟結
 社ヲ全然自由ニスルコト
 六 戰時中社會的休戰ヲナスコト(意味不明)
 七 建國大會地方議會市會ノ改選ヲ行フ
 コト
 八 西伯利ノ自治ハ單ニ露西亞國ノ復興
 ヲ見ルマテノ期間ニ於テ爾過渡的階
 級トシテ條件附キ之ヲ認ムルコト
 西伯利ノ政權ハ召集サルヘキ西伯利

州議會ニテ之ヲ決定スルコト
 以上
 報告通報先
 總督
 陸軍大臣
 軍司令官
 内閣書記官長
 政務總監
 參謀總長
 師團長
 拓殖局長官
 總務局長
 關東都督
 憲兵司令官
 外務次官

新報13054號

大正七年七月十七日

浦潮情報 第四三八號

六月三十日同地發

(六月三十日朝憲機第四四號參照)

浦潮斯德ニ於ケルチエック軍ノ蹶起ト

既報ノ如ク在浦チエック軍ハ二十九日ヲ以テ突然蹶起シ勞集會軍隊ノ武装ヲ解除セシメテ勞代會ノ領袖等ヲ逮捕シ要塞司令部ニ據リテ武装解除ノ要求ニ應セサリシ赤衛軍ノ一部ヲ撃滅シ全ク市ヲ占領シ之ト同時ニ四月廿五日以降過激派ノ為ニ驅逐サレタル沿海

州參事會五月八日以降同様ノ運命ニ遭遇シ居タル浦潮市參事會ハ俄カニ起テ政權ヲ回復シ今ヤ浦潮斯德市ハ過激派全滅シテ政權ハ普通選舉法ニ據テ選出サレタル自治体ノ掌中ニ歸セリ

チエック軍カ俄カニ蹶起シタル原因ハ言フ迄モナク「イルクーツ」以西ニ於ケル事變即チ勞集會政府カ獨逸ノ壓迫ニ餘儀ナクサレ同軍ノ武装解除ヲ為シ兵員ヲ俘虜トシテ兵營ニ收容セントスルノ命令ヲ「ロイヤル」ノ名ヲ以テ發シタレハ西伯利鐵道各駅ニ在ル同軍擄隊

天正七年七月十七日 第一號 第三號

対シテ過激派軍カ武装解除ヲ要求シ其ノ
 結果兩軍ノ衝突トナリテ軍ハ到ル處優勝ヲ
 占メ且又過激派起テ勞共會ノ政權ヲ顛覆セ
 ントシ西伯利ニ於ケル勞共會ノ政權ハ益々
 危機ニ瀕シタレハ過激派ハ獨逸僞虜ヲ武装
 セシメテ子軍ノ鎮壓ヲ企テタルヨリ茲ニ子軍
 ノ職起ヲ見ルニ至リタルモノノ如シ
 今本件ノ狀況ヲ概記スレハ左ノ如シ
 七月廿八日午五時子軍ノ一士官
 ハ日本領事等ニ對シ七月廿九日午前十時
 ヲ以テ勞代會ニ最後通牒ヲ發シ過激派軍

ノ武装解除ヲ要求シ回答猶豫期間三十分
 間ヲ與フルコトニ決定セル旨ノ通知狀ヲ
 寄セタリ
 廿九日午前十時半子軍ノ軍ハ既ニ進發シ
 テ先ツ勞代會ヲ占領シ同會ノ幹部員ヲ逮
 捕シ逃亡者所在不明者ハ之ヲ搜索シテ追
 ヲ逮捕セリ勞代會ノ占領ト前後シテ子軍
 ノ軍ハ國立銀斷海軍司令部海軍工廠等ヲ
 占領シ午前十一時ニハ市廳ヲ占領シタリ
 市廳占領ト同時ニ市長アガレフ以下當テ
 放逐サレタル市吏員等市廳ニ出頭シ直ニ

市参事會ノ事務ヲ復興シ市民ニ宣言書ヲ
發シ逮捕サレタル警察署長ノリニヨリノ代
リニ「カーシ」ナルモノヲ臨時署長署理ト為
ス等着々トシテ秩序回復ニ勉メ同夜七時
半臨時市會ヲ召集シテ時局問題ヲ議レ市
會議員改選問題ヲ決定シ七月十四日ヲ
以テ愈々選舉ヲ行フコトトシ此ノ旨三十
日早朝布告ヲ發セリ
市廳ニハ西伯利自治政府ノ代表者「エミツサリ」
市長沿海州参事會長等相集リテ擬議シ浦
潮市ニ西伯利自治政府「エミツサリ」トナル者

ヲ談クルコトニ決シ「エミツサリ」以下日本總
領事館等ニ出頭シ此ノ事ヲ通告セリ
「チツク」軍ハ此ノ間赤衛軍及赤旗軍ニ通告
シテ直ニ武装解除ヲ要求シタルニ赤旗軍
司令部ニ在リシ同軍及臨時工場ノ赤衛軍
等ハ或ハ逃ケ或ハ降りテ無事ニ解決シタ
ルカ獨リ停車場ノ向側ナル要塞司令部ニ
據リタル赤衛軍約五十名ハ遂ニ武装解除
ヲ肯マス(刺ノ軍使ニ立テル「チツク」兵四名ヲ殺戮セリ
トノ説アリトモ未ダ確報ニ接セス)依テ午後五時五
分前「チツク」兵ハ之ニ対シテ射撃ヲ開始セ



リ「子」ツラ軍ハ停車場構内及其ノ隣接地に
 フ占領シ機関銃ヲ据ヘ付テ小銃及機関銃
 ヲ以テ盛ニ司令部ヲ攻撃シタルトモ堅牢
 ナル煉瓦ノ四層樓ニシテ小銃機関銃ノ射
 撃ヲ以テ午後六時ニ至リ「子」軍ハ遂ニ肉迫
 サリシカ午後六時ニ至リ「子」軍ハ遂ニ肉迫
 シテ爆彈數發ヲ投メシカハ同建築物ノ一
 部ハ忽チ破壊セラレテ火災ヲ起シタルハ赤衛
 軍モ遂ニ白旗ヲ掲クルニ至レリ戦闘開始
 ヨリ終局ニ至ル迄約一時間半トス
 英國領事館ハ恰モ停車場前廣場ノ街角ニ

當リ戰場ニ最接近シ居タレハ特ニ陸戦隊
 フ増加シテ警戒ヲ嚴シ日本陸戦隊モ特
 ニ分遣隊ヲ同館前及停車場ノ一部ニ派シ
 テ警戒シ居タリ
 此ノ戦闘ニ参加シタル「子」軍ノ數ハ明ナラ
 サレトモ二三百名ニ過キサリシカ如シ死
 傷者數ハ新聞ノ報ニ依レハ赤衛軍ノ戦死
 ニ名其ノ中一名ハ埃國人「マヂヤル」ナリシ
 ト負傷者十名「子」軍ノ負傷者五名ナリシト
 云フ
 日英兩國ノ陸戦隊ハ廿九日午前十時ヨリ



直ニ行動ヲ開始シ市ノ附近ノ高地及要害
 二占據シ市中ニハ中立地帯ヲ設ケテ万一
 ヲ警戒シタリシカ要害司令部ハ赤衛軍降
 服後ハ皆之ヲ撤去シタリ
 又那軍艦海容號ハ十二時頃陸戦隊ヲ揚陸
 シ本部ソ支那商務總會附近ニ置キ一部約
 二十名ハ支那總領事館ニ入りテ警備ニ着
 ケリ支那住民ハ豫メ支那總領事館ノ布達
 ニ基キ事件發生後間モナク五色ノ國旗ヲ
 各軒頭ニ掲ケ其ノ所在ヲ明示セリ
 又チソノ軍ハ市中ニ行動ヲ開始スルマ市中

ノ店舗ハ一齊ニ閉店シタリ
 出征軍人同盟會ナルモノアリ兼テ過激派
 二對シテ好感ヲ有セサル傾アリシカ過激
 派ニ同盟休ヲ多シ危惧スル所アリ勞代會
 二對スル代議選舉ニ當ラセ同會ヲ以テ一
 ノ同盟ト認メスレテ之カ解散ヲ命ジニ十
 八日ハ之カ爲ニ同會ハ示威運動會ヲ催サ
 シトシテ亦禁モラルル等同會ニ對スル勞
 代會即チ過激派ノ壓迫頗ル甚シヤモノア
 リシカ廿九日ノ事件突奔スルヤ彼等ハ期
 二スレテ會スル者道ニ數百名ニ達シ一應



停車場前ニ集合シ停車場警察隊其ノ他ノ
武装ヲ解除シ得ルニ從テ自ラ武装シ午後
五時ノチ軍赤衛軍戦闘ニハ「チ軍」應援シ
タル者モ少カラザリシヲ認メタリ
海軍司令部ハ「チ軍」之ヲ占領シ居レルカ此
處ニハ西伯利自治政府ノ名ヲ以テ義勇軍
ヲ募集シツツアリ夜未前記ノ出征軍人會
及負傷軍人同盟會（之ニ前者ト同様ノ運命ニ憤
慨シ居リタルモノナリ）等ヨリ志願スル者陸續タリ
又港内ニ碇泊中ナリシ過激派海軍艦逐艦
「ガラウイ」ツウヨールドワイ「ト」チ文「マレー」エ「ノ」

四隻ハ午前四時頃一時ニ纜ヲ解キ出港セ
ントシタルニ帝國軍艦ノ信號ニ依リ俄カ
ニ引返シ旧位置ニ繫留シタリシカ三十日
午前十時ヨリ午後二時迄ノ間ニ武装ヲ解
除シ武器ハ我朝日艦ニ預リタリ武装解除
ニ就テハ「チ軍」ノ軍ノ依頼ニヨリ我海軍ヨ
リ士官水兵ヲ派遣シテ援助シタリ「チ軍」
軍ハ陸兵ノミナルヲ以テ海軍ニ暗キヲ以
テナリシト云フ
三十日午前九時「チ軍」兵ハ「クンスト」アリベル
ス商店内其ノ舍宅等ニ臨時家定搜索ヲナ

シタル後各門ハ衛兵ヲ附シタリ家宅捜索ノ結果概闕銃ノ彈帶ヲ拵見シタリト云フ詳細ハ未タ不明ナリ其ノ後得タル情報ニ依レハ「クンスト」ニテ拳銃一千挺以上ヲ拵見シタリト云フ

「チエック」軍ニテ二十九日三十日ノ両日間ニ於テ逮捕シタル獨探嫌疑者ハ二十一名ニ達スト

今日マテ逮捕セラレタル過激派領袖中重ナル者左ノ如シ

スハーノフ 労代會執行委員會長兼革命軍司令部長官

- ニキーフオロフ 市政代官
- ステパノフ、ブロードスキー 国立銀行代官
- スウヤデルスキー 市財務代官
- メリニコフ 市警察署長
- ワークス
- クーチエレンコ
- ポワリンスキー 市司法代官
- フロミンスキー 探偵課長
- マチューシン 義勇艦隊工廠職工
- 右ノ内ニキーフオロフハ自ラ市廳ニ出頭シテチエツ之軍衛兵長ニ向ニ自分ハ「ニキーフオロフ」ナ

リ須ラク捕縛スヘシト自首シ縛ニ就ケリ
之ニ及シテスノハ自動車ニテ逃亡セン
トスル處ヲ途中ニテ捕ヘラレタリ又傍代
會執行委員會員グリヤーエフハ短銃ヲ以テ
一番川臨事工場内ニテ自殺ヲ遂ゲタリ
此ノ外檢事ソシキンノ名ヲ以テ革命裁判
及豫審委員會速捕シ過激派ノ為ニ任命
サレタル革命裁判刑事部長陸軍少將エフ
セーエフニ捕縛サレタリ
叢ニ過激派ノ為ニ逮捕サレ居タル及過激
派ノ者ハ二十九日悉ク釈放サレタリ

チツクスロワク軍政府カ充分ナル實カヲ
構成スル迄現地位ニ止ルヘシ
西伯利政府内ニハ有識者ヲ以テ法律會議
ヲ創設スヘシ
浦潮斯德ニ於ケル全兵力ノ總指揮官トシ
テ西伯利政府ハソオルコフニ大佐ヲ任命シ
リ
西伯利政府ナルモノハ一千九百十八年一
月中トムスクニ於ケル西伯利州議會ニ於
テ創設サレタルモノナリ
白綠色ノ標旗ハ古代ニ於ケル自由自治西

伯利ノ標旗ナリシ
西伯利政府内ニ
= 専門家ヨリナル
評議會ヲ設ケタリ
財政經濟問題解決ノ爲

以上

報告通報先
總督 政務總監
陸軍大臣 參謀總長
軍司令官 師團長
内閣書記官長 拓殖局長
咸興鏡城隊長 間島液遺員
外務次官
憲兵司令官
總務局長
閣東都督

第13228號

大正七年七月廿日 接獲 雙喜 第一課

大正七年 朝憲機第四四號

七月廿日 哈爾濱情報

七月廿日 同地發電報

茲數日來哈爾濱地方ノ政界非常ニ緊張シ稍

險惡ノ感アリ其ノ狀況左ノ如シ

一、ホルワト新政府成リテ當地方ノ立憲民主黨

實ハ右主党及共和黨有産階級ノ者等十二

日協議シテ之ヲ贊成スルノ聲明書ヲ起草

シ十三日發表ノ若但シ社會党中ノ左党ノ

後援ヲ熱望シ露國ノ再興ヲ期スルモノナリ

二、浦湖ノ西伯利亞政府ハトムスク政府ノ再現

ニシテ其ノ主宰バルブルク以下多ク猶太人

ニシテ又社會主義ヲ採リホルワト政府ト全

ノ反對ニテ敵國ノ感アリ米國人ハ密ニ浦

湖政府ヲ援助シ日本ノ向ヲ張り妨害ヲ試

ミ居レリ

三、チエヒ軍浦湖政府ニ合体セストモ難計事

情アリ合体スレハホルワト政府兵力乏シク

忽チ危險トナリ久シカラスシテ覆滅シ極

東又大混乱ニ陥リ獨強兩國ニ一大得意ノ

機會ヲ與フモ知レテ故ニ二十日ヨリホル

ワト將軍ハ出發先ニテチエヒ軍司令官ニ

味方センコトヲ勸誘中ナリ
 要スルニ「ホルワト」新政府ニ対スル社會党
 中ノ左黨以外ハ皆之ヲ賛成シ此ノ賛成者
 ハ前陳ノ理由ニ依リ此ノ際一刻モ早ク日
 本ノ援助實現ヲ熱望セリ民主黨ト共和党
 ノ當地ノ識者ニシテ「ホルワト」同行セシ者
 昨日特ニ小官(當部派遺員)ヲ急ニ來訪シ
 目下ノ狀況ヲ訴ヘ血液ヲ振ヒ露ヲ救フ者
 ハ日本ノナリナリ一日遼ルハ西國一日ノ
 大損害ナリ大至急日本ノ英断ヲ乞フ同僚
 ヲリモ此ノ旨通セヨト謂ヘリト切言セリ

五 日本ノ援助遂ルルカ爲既ニ極東ノ有産階
 級及社會黨員中ニ獨逸員ノ氣分生シ
 未リ此ノ條出兵愈々延引スレハ「ホルワト」將
 軍ノ後援者タル共和黨立憲民主黨ニ亦親
 獨カ親米トナルノ虞アリト有カナル某露
 國人ハ語レリ

以上
 郭光通郭光
 陸軍大臣 參謀總長 關東部督
 軍司令官 師團長 憲兵司令官
 内閣書記官長 外務次官

第13283號

大正七年七月廿二日發
大正七年七月廿二日發
七月廿六日朝憲機第四四一號

第一課

浦潮情報

七月十六日同地發電報

當地資產階級及非社會主義者等ハ十五日
ノ會議ニテ「ホルワット」執政官ノ宣言シタ
ル政綱ヲ是認シ全力ヲ舉ケテ之ヲ助クル
コトヲ決議セリ

領事團ハ州市參事會ノ交渉ニ應シ内乱豫
防ノ目的ヲ以テ「ホル」將軍麾下ノ露領退去ヲ
求ムル爲ニ委員ヲ「カルムイコフ」ニ派遣セム
トス事態大ニ紛糾ノ兆アリ

日本出兵決定ノ入電ニ接シタル向アリ

以上

報告通報先

總督 政務總監 總務局長

陸軍大臣 參謀總長 關東都督

軍司令官 師團長 憲兵司令官

内閣書記官長 拓殖局長官 外務次官

大正七年七月廿二日 櫻

大正七年 朝憲機第四四七號

浦潮情報

第13287號

浦潮斯德市共同警備ニ関スル列國海陸軍司令官ノ名ヲ以テ察シタル宣言ニ関スル件

(七月八日朝憲機第四二一號参照)

列國海陸軍司令官ハ合議ノ結果七月六日午後二時左記ノ宣言書ヲ浦潮市長ニ交付シ同

時ニ市中ニ之ヲ公告セリ
独塊俾害同謀及密使等ノ公然又ハ秘密ノ行動ニ依テ浦潮斯德市及聯合國カ危険ノ

状態ニ在ルニ鑑ミ聯合國ハ今后浦潮市及周圍一帶ノ地域ヲ以テ聯合國ノ臨時警備ノ下ニ置キ此ノ地域ニ對スル内外ノ危険防護ノ為ニ百方手段ヲ講ズルニトトセリ
從來カエツクス口ワリテ軍司令部ノ深シクル一切ノ命令ハ其ノ効力ヲ存續ス沿海州參事會及市參事會ハ地方的業務ノ範圍内ニ於テ之ヲ認メ併シテカテ自今市中ニ於テ行動シツツアル独塊密使及其ノ勢力ヨリスル危険ヲ豫防スル為ニ必要ト認ム

ル兵数及警察力ヲ聯合國ノ兵算ヲ以テ増
加スルコトアルヘシ
本件ハ露國々民ニ対スル友誼ト同情ノ精
神ヲ以テ為サレルモノニシテ決シテ政黨
政派ニ対スル偏見ニ基クモノニアラス且
本行為ノ結果トシテ期待ナルヘキ小康ノ
間ニ於テ右政黨カ一致協同シ各協ト愛國
心トニ依テ鞏固ニシテ永久の十ル政府ヲ
復興シ以テ彼ノ露國民ヲ驅テ永久ニ自己
ノ壓制ノ下ニ制縛セシト焦リツツアル獨
塊ノ暴主的統裁ノ羈絆ヲ脱セシメシコト
ヲ熱望スルモノナリ
凡ソ自覺アル露國民タラシモノハ宣敷協
同一致以テ秩序ト法規ノ維持ニ努メサル
ヘカラス

千九百十八年七月六日

於沖漸斯德

英國亞細亞艦隊司令官海軍大將 ナイト

帝國特務艦隊司令官海軍大將 加藤寛治

英國艦隊司令官海軍大將 パーキン

チエツク、スロワキヤ軍所佛國武官

陸軍大佐 ハリス

支那海軍艦長海軍大佐
チエツク、スロワキヤ軍浦潮衛隊司令官

劉

陸軍大尉 バクエツク

備考本宣言發布后別段具體的、警備ヲ為
セルヲ見不唯一番川方面ニ備フル為
ニ市ハ一番川トノ中間ナル監獄所附
近ニ聯合國水兵ヨリ一部隊ヲ派遣シ
アリ之ニ一番川方面カ労働者、集密

ニシテ其ノ暴動ヲ威壓スルノ豫防策
ナルカ如シ同時ニ市中ノ逃匿隊ヲ若
干増加シ其ノ巡邏ノ後數ヲ頻繁ニ
スル位ナリ而シテ之等ノ方由リ時々
聯合國司令官會議ノ結果臨時変更サ
ルヘキニナリト云フ

以上

報者通報先

總務總監 總務局長

陸軍大臣 參謀總長 南東野備



軍司令部
内閣書記官長
國庫官隊長
師團長
拓殖局長
鏡城官隊長
壕司令部
外務次官

13382

大正七年七月廿三日接受

陸軍部 第四五二號

七月十九日各地電報

北シ島蘇里河ニ據リテ
 ミント大敵ノ兵力九千
 約三千イマニ本部署
 ロフスキル代リニ置ク
 タリト報スルムイコフ
 見込アリ上

北シ島蘇里河ニ據リテ
 ミント大敵ノ兵力九千
 約三千イマニ本部署
 ロフスキル代リニ置ク
 タリト報スルムイコフ
 見込アリ上

報告通報先
 陸軍大臣
 軍司令官
 内閣書記官長
 鏡城憲兵隊長

政務總監
 參謀總長
 師團長
 拓殖局長

總務局長
 關東都督
 憲兵司令官
 外務次官

雙鷺 第二課

陸軍朝憲機第四五二號

七月十九日陸軍電報

刊軍ノ公報ニ依レハ子軍ハ十六日確實ニ
ノ軍ハ大損害ヲ蒙リ敗
スバアスカヲ占領ス敵ハ大損害ヲ蒙リ敗
北シ烏蘇里河ニ據リ援兵ヲ待テ防禦ヲ試
ミシト大敵ノ兵力九千ノ内獨逸士ノ俘虜
約三千イマシ本部署ク敵ハ司令官ヲ
口フスキノ代リニ置ク大將ヲ任命シ
タリト報スルムイコフハ子軍ト妥協ノ
見込アリ上

報告通報先
陸軍大臣 督
軍司令官
内閣書記官長
鏡城憲兵隊長
政務總監
參謀總長
師團長
拓殖局長
總務局長
關東都督
憲兵司令官
外務次官

秘授13383號

大正七年朝憲機第四五三號

浦潮情報

七月十日同地發

浦潮方面ノ政争ニ関スル件
 西伯利自治政府ナルモノ浦潮ニ創設サレ
 シ以テ浦潮ハ將ニ政争ノ中心トナラント
 スルノ概アリ同政府ニ対スル各政黨ノ態
 度ハ社會主義ヲ標榜スル黨派ハ皆之ヲ兼
 認スルコトヲ表明シ地方農民ノ如キモ事
 變以來豹変シテ勞農會ノ名義ヲ棄テ西伯
 利政府ノ青緑色旗ノ下ニ馳セ集ラントス
 ルノ傾アリシコト芽レ村ノ如キ既ニ之ヲ

發表シタリ「チツク」軍ノ成功發展ト共ニ此
 ノ傾向ハ漸次沿海州ヲ風靡スルニ至ルヘシ
 唯同政府ノ為ニ悔ルヘカラサル一敵國ハ
 「バルピン」ナル「ホルツ」將軍ヲ中心トスル一團
 体ナリトス同將軍ハ七月十日國民ニ弁セ
 シ概文ヲ浦潮方面ニモ配付シ十二條ノ政
 綱ヲ擧ケ已テ以テ臨時政府ノ唯一ノ残留
 者ナリトシ執政官ヲ以テ自任シ軍ヲ西伯
 利ノミナラス露西亞各方面ノ自治聯邦ヲ
 統一シテ大露西亞共和國ヲ建設スルモ
 ハ我ナリトノ抱負ヲ發表シタルカ之ニ依

テ見レハ「ホルツト」將軍ハ全露ヲ統轄スルノ
政府ヲ建設セントスルモノニシテ西伯利
政府トハ何等差問ヘナク交渉解決スルモ
ノ如ク思ハルレトモ西伯利政府ハ之ニ
對シテ精疑ノ目ヲ以テ之ヲ視ツツアルノ
觀アリ而シテ滿洲方面ニ於ケル非會社會
主義者ノ政黨及資産階級者並高工業者カ
今日迄西伯利政府承認ノ拳ニ出テサルハ
一ニ此ノ「ホルツト」將軍派ニ歸テ居ル
ノ結果ニシテ西伯利政府ナルモノヲ排斥
シ「ホルツト」政府ヲ以テ直ニ州並市ノ自治

機關ヲ統一セシメントスルモノニ似タリ
「ホルツト」ノ「公認」政府ヨリハ七月十日「アレシコ
」大將「ブルグ」大將等來浦シ自治團體等ト
折衝シツツアルカ如キモ如何ニ解決スヘ
キヤ未詳ナリ
西伯利政府ニテハ既ニ募集シタル義勇軍
二個中隊ト外ニ警察隊約一個中隊アレト
モ「ホルツト」ノ兵力ニ比スレハ固ヨリ微々タ
ルモノニ過キス（「ホルツト」ノ兵力ヲ詳知セサレ
トモ）若兩者間ニ兵力ヲ以テ相争フ時ニ至
ラハ其ノ結果固ヨリ知ルヘキノミ但シ「ホ

ルワットハ不幸ニシテ露國ノ疆土外ニ在ル
ヲ以テ今日ノ場合「チエツ」軍トノ交渉同滿
ニ解決スルニアラサレハ武装ノ兵ヲ率ヒ
テ國境ヲ越ヘテ露領ニ入ルコト能ハサル
ヘシ仮リニ露領ニ入りタリトスルモ兵ヲ
浦潮ニ進ムルコトハ同市カ今日列國ノ共
同警備ノ下ニアル以上是亦不可能ナルヘ
シ旁々「ホルワット」ノ地位ハ頗ル妙ナラサル境
遇ニ在リト言フヘシ
當地列國領事團ハ七月十日ノ會議ニ於テ
「ホルワット」政府ニ對シテハ何等交渉ヲ爲ササ

ルコトニ決セリト謂フ
西伯利自治臨時政府ニ七月十日宣言書ヲ
列國(聯合國及中立國)ニ送付シタルカ其ノ
政綱トシテ別ニ新シキ項目ナク單ニ之ヲ
以テ承認ヲ求ムルノ階段ニ過キサルヘシ
一右宣言ノ翻訳ハ次便ニ「ホ」將軍ノ宣言ト
併セテ送付スヘシ
兼テ勞代會驅逐其ノ領袖ノ逮捕等ニ對シ
多數ノ要求ヲ提出シ之ヲ容レラレサルハ
同盟罷業ヲ爲シ市會改選ニ参加セス
西伯利政府ヲ承認セスト稱シ居タル勞働

職業同盟會モ、軍司令官、聯合國領事團ヨ
 リ否定的ノ回答ヲ與ヘラレ、到底勢ノ挽回
 スヘカヲサルモノアルヲ見ルヤ、漸ク弱音
 ヲ吐キ市長ニ向テ改選期日ヲ二週間猶豫
 センコトヲ請フノ決議ヲ為セル等、未島
 合ノ徒ノ自覺ナキ行為ナレハ、遂ニハ勢ニ
 屈服スルニ至ルヘキノ傾向ヲ示セリ
 勢如此ナルヲ以テ、今後ノ政辛ハ前述べノ通
 リ「ホルワツト」政府ト西伯利政府トノ間ニ
 ルモノノ如シ
 以上

報告通報先
 總督
 陸軍大臣
 軍司令官
 内閣書記官長
 哈爾濱派遣員
 政務總監
 參謀總長
 師團長
 拓殖局長官
 總務局長
 關東都督
 憲兵司令官
 外務次官